



——六大学リーグ戦（3月21日時点）を振り返って

大元 思ったより勝ち星を挙げられているという印象です。3日前までアメリカにいて練習もしておらず、みんな不安がある中でこういった成績を残していることに対して、正直驚きの方が大きいです。

黒木 結果どうこうというよりは、中身を大事にしました。チームでアメリカ研修に行っていたため2日間しか練習できていない中で、「結果より中身にこだわっていこう」という方向性があったので、そういった中身の部分は意識できているのかなと思います。

木澤 六大学に向けての目標というのは特に決まっておらず、現時点での力を試すということを重要視していました。昨日は2連敗してしまって、チームとしてできている部分があればできていない部分も見えましたが、今日の立教戦では自分たちが一か月やってきたことが出せたので、勝利を収めることができたのかなと思います。

山本 ケガで全く試合に出ていないのですが、新し

いコーチの下で「どういう風にバスケットができているのかな？」という感じで見ていました。今日の立教戦の感じでは、ちゃんとできているという印象でした。

——去年一年間を振り返って

大元 ヘッドコーチが代わって1年目ということで戸惑いという部分が大きくあった中で、六大学を優勝し波に乗れるのではないかと考えていた矢先にトーナメントが15位という結果で、上手くいかない部分が多かったです。そうした課題にチームとしてずっと取り組んでいたのですが、最終的に自分たちの目指していたオールジャパン出場等、目標を達成できました。今年は、「それ以上の目標を達成しなければならない」というプレッシャーはあります。

黒木 言いたいこと全部言われちゃったのですが（笑）。最初、新体制が変わって選手一人一人の中では戸惑いというものがあったと思います。苦しい時期もあったのですが、その中でうまく具合に最終的には1部に残留できたり、オールジャパンに出場することができたりというのは、やっぱりチームにとっ

ては大きな収穫だったんじゃないかなと思います。

木澤 2年前に早稲田は2部に落ちてしまって、すごく悔しくて…。昨年の目標は1部昇格で、春のシーズンはトーナメント5位とよかったのですが、秋のシーズンはリーグ戦4位という入れ替え戦も行けずインカレにも出られないという、2年前よりも更に悔しい結果に終わってしまいました。今年は、監督もスタッフ陣もガラッと変わりまだわからない部分もありますが、目標の1部昇格に向けて「絶対今年こそは！」という思いがあるので、それに向けて頑張っています。

山本 全部木澤がしゃべっちゃったので…（笑）。本当に木澤が言った通りです。

——お互いのチーム、選手の印象は？

大元 早稲田は、一人一人が上手いという印象がありますね。2年前だったら河上さんっていう絶対的なエースがいたのですが、昨年と今年のチームを見てみると、一人一人が全員上手く、「誰が出て同じバスケットができる」という印象を受けています。

黒木 私が下級生の頃の早稲田の印象は、結構タレント軍団という感じで本当に穴が無いなという感じがしました。今も一人一人が忠実というか、「走るしやることをしっかりやる」という印象がありますね。

木澤 慶應は、2年前やもちろん昨年もそうでしたが「外がよく入るな」という印象で、速攻のときにレイアップに行かずスリーを狙う大元だったり、あと昨年は伊藤さんや福元がいて、そこにはちゃんと対応していかないといけないと思います。今年は昨日試合したのですが、外もあれば黒木のようにインサイドプレイをしっかりとやってくる選手もいるので、そこも抑えていかないと勝てないなという印象です。

山本 昨日私は出ていませんが、試合を見ていた限りでは外が大元とかかめちやくちや入って、フィジカルが強い選手もいっぱいいるなという印象でした。

——早慶戦とは？

大元 私たちは昨年勝つまで3年間負けていたので、勝ちたいという気持ちの方が強かったのですが、一回勝ちを経験してみて、慶早戦は何か他の試合では



早稲田大学

木澤 義椰

言い表せないような「魂を押し出さないと勝てないのだ！」というのを実感しました。そういう意味でもあの一試合に懸ける思いには、「言葉では言い表せないようなもの」があると思います。一言で言うと「魂」ですね。

黒木 私は一言で表すと、「流れ」ですね。ワンプレイ、ワンプレイで流れが変わってしまう、流れで勝敗が決まるといっても過言ではない気がしています。

木澤 早慶戦は本当に一発勝負で、どちらかが勝ってどちらかが負ける。そういう意味では「意地の張り合い」ですね。

山本 木澤と同じです

——早慶戦のキーマンは？

黒木 私は、2年生になるトカチョフ・サワと木村だと思いますね。2人のインサイドプレイヤーがキーマンになると思っていて、一番伸び代がある2人なんじゃないかなと思っています。その2人がどういう活躍してくれるかで、チームの流れも変わってくるんじゃないかなと思っています。

大元 私は4年生だと思っていて、昨年早稲田は4年生が1人も出ていない状況で慶早戦を戦ったと思うのですが、そういう部分で4年生の気持ちが大きく試合の流れを変えようと思っています。昨年なんかも慶應は、伊藤さんがチームを全力で引っ張りまし

たし、4年生の勝ちたいという思いが強い方が最終的には勝つんじゃないかなと思っています。

木澤 私も大元と一緒に4年生です。チームを作るに当たっても、4年生がしっかりしてリーダーシップを取らないとチームは成り立たないと思っていて、新しい監督の財前さんにもミーティングで「4年がしっかりしていかないと後輩もついて行かない」と何度も言われています。4年生でいろいろ話し合いながらチームを引っ張って行こうという風に決めたので、そう考えると試合に出ているに出なくてもベンチから声を出すということなども必要ですし、キーマンは4年生だと思っています。

山本 私は逆に下級生だと思っていて、下級生がどれだけ4年生についてきてくれるかという部分で下級生が大事になってくるのではないかと思います。

——印象に残っている早慶戦はありますか？

黒木 昨年勝ったのはすごく嬉しかったのですが、私個人としては1年生の時で、やっぱり一番最初の慶早戦です。すごいなっていう印象があって、観客の歓声だったりチームの盛り上がりだったりとか、初めてそれを体感したときはびっくりしました。

大元 私は昨年の慶早戦で、ホームコートで初勝利できたというのが大きいです。慶應開催だったので、「意地でも」という気持ちがあって、それが結果、勝



早稲田大学
山本 純平

利につながったので、昨年が一番印象に残っています。

木澤 私も1年生の時の早慶戦が印象に残っていて、自分は試合には出ていませんでしたが、その時は4年生の大塚さんがチームを引っ張ってプレーしていました。4ピリまで負けていたにもかかわらず最後逆転勝ちで勝利を収めたという、本当にベンチも一体となって盛り上がった楽しかった試合だったので。

山本 木澤と一緒にです(笑)。昨年は負けて、一秒も試合に出ることすらかなわなかった4年生が試合後めちゃくちゃ悔しがっていた。ただただ申し訳なく思ったのですが、やっぱり一番は1年生の時です。

——お互いのヘッドコーチの印象は？

大元 早稲田の財前ヘッドコーチは洛南OBで、毎年12月にOBが集まる飲み会の幹事なんです。そこでの印象しかないのですが、「あの人が早稲田のヘッドコーチに就任する」と聞いた時は驚きました。でも一度試合をやってみて、すごくシステムチックなバスケットをするなと感じました。

黒木 私は、全く知らなかったです。いまはまだよく分かっていないです。

木澤 慶應の阪口ヘッドコーチは、細かいところを結構言ったりしているのは耳にします。

山本 私は、阪口さん見ていないので分かりません(笑)。印象があまりないというか…

大元 ただ見てないだけじゃん(笑)。

——オフの過ごし方は？

大元 私は、カフェで読書しています！嘘です。割と体育館に足を運ぶようにはしています。大概体育館に行くと、誰かしらいるので。自主練ですね。本当は、バスケットとその他で切り替えたいのですが、あまりにもすることがなくて。

黒木 寝て、昼にちょっと外出て、ご飯食べて、自主練して、帰ってまた寝て、ご飯食べて、お風呂入って、寝る。コレですね、間違いない。自主練はやっぱりします。特にシーズン中とかだったら、尚更です。

木澤 昨年は、結構一人映画とかしていたのですが、最近は就活が忙しくて、筆記試験に備えてSPIだと



慶應義塾大学
大元 孝文

かOB訪問に行っています。

山本 寝ています。

大元 昨年も、それだったじゃん(笑)。

山本 やることがなくて…。

大元 確かにね。意外とやること無いのですよ。

黒木 あと私はスニーカーが好きなので、原宿とかに見に行きますね。チェケラしています。

——早稲田と慶應での選手間の交流はありますか？

大元 あまり無いですね。こういう場で話すくらいで、試合とかでなければ、会わないです。でも、洛南同士とかなら結構上下関係も厳しくないの、話すと思います。大学を超えてしまうとあまりないと思います。

——相手から取り入れたいことは？

大元 昨年のピックは、すごく参考になりました。早稲田は、今年システムが変わっていますが、昨年のあの感じを真似できたら攻めやすそうだなと思います。

黒木 私は、木澤ですね。

大元 また、みんな思い切りシュートを打つのは良いと思います。新川とか伊藤諄哉とか、そういう部分は試合をやっていて感じました。あとは、27番の濱田とか印象的でした。

山本 慶應も結構思い切り打ってくるよね。

木澤 そうだね。でもその中でも黒木とかは確実に

ミドルを決めてくるので、外やるなかでインサイドのフックシュートとかペリメーターを決められると、こっちとしては“ガクッ”となります。そういう部分は尊敬しています。

山本 木澤と一緒に。

一同(笑)。

——4年生ということで、チームをどのようにまとめていきたいですか？

山本 4年が、引っ張っていかねばならないと思います。プレーでも練習でもしっかりと声を出して、自分がやらねばならないという責任感を持っていかねばならないと思います。

木澤 だいたい一緒ですが、やはり4年生が引っ張っていかねばチームは成り立たないと思うので、そういう中でコミュニケーションを取るようになっています。練習前後にサークルを組んでキャプテンなどを中心に話したり、練習中でもしっかりとコミュニケーションを取っています。4年生に限らず、下級生にも学年関係なく「言いたいことは言うようにしてくれ」と伝えているので、今まで以上にコミュニケーションは取れています。

黒木 慶應の4年生は、高校までキャプテンだった人が多く、13人いますが結構みんなリーダーシップを発揮しています。後輩を巻き込んで大きくしてく



慶應義塾大学
黒木 亮

れる中で、たくさんの個性を持ち合わせて良さを発揮できればいいと思っています。

大元 私は、全てのプレーヤーが全力で取り組むことだと思っています。私たちの練習時間は限られているし、上達するには一人一人が全力で取り組む必要があるはずです。私は、今後一年全力でやると決めていて、黒木も言ったようにそれで全体を巻き込んでいけるようなれればと思います。

——どんなチームにしていきたいですか

大元 今年の私たちのスローガンが「真直」で、真摯に愚直に真面目にという事で、そして私たちが目指すのは、「観客から応援されるチーム」です。2年前のインカレ東海大戦は、うちが負けているのに慶應の応援しか聞こえてこなかったです。全力で取り組んでいるからこそ得られる観客の応援だと思いますし、そういう雰囲気を作り上げていこうと話しています。

木澤 早稲田は、まだはっきりとは決まっていなくて、これから話し合おうと思っています。昨年のイン

カレでの慶應の試合とか見ていると、観客から拍手されたりしていて応援されていたなと思うので、勝ち負け関係なく応援されるというのは非常に大事だと思います。

——早慶戦への意気込み

大元 最後の年なので「絶対に勝利で終わりたい」というのが一番なので、勝ちを得るために全てを注ぎ込みたいと思っています。

黒木 みんなで勝利の涙を流そう。コレですね。

木澤 今年で最後ですし、昨年は本当に悔しい負け方をしてしまったので、そのリベンジという意味でも今年は勝ちたいです。「最後は笑って終われるように」と考えています。

山本 個人的にはケガを早く治して、万全な状態が出たいです。全体的には、早慶戦は4年生のための試合といたらおかしいですが、下級生に4年生のしっかりと引っ張る姿を見せられる舞台だと思っているので、4年生から下級生へ残せることをしっかり残したいです。

——過去2年間のシーズンを振り返って感想をお願いします

西戸 大学に入って自分に求められるものがはっきりするような環境になって、自分が考えているようにプレーできたり、求められているものを表現できるようになったことが実感できるようになってきたことが、私が体育会のバスケットボール部に入って充実していると感じる部分です。

後藤 高校までの環境とは、本当に大きく変わりました。個人的には1年生の時プレータイムをもらえず悩んでいたのですが、去年になってやっと少しずつ試合に出られるようになってきたという感じです。この2年間は自分なりに試行錯誤しながら、バスケットボール的にも人間的にも成長できたと思います。

伊藤 嵐みたいでした。高校の時と環境が違い、1年生の時は本当に苦労しました。高校までは、先生から求められることがあったので「自分が何をすればいいか」ははっきりわかったのですが、大学に入ったら1人の選手として自立しなくてはいけなくて、自分に足りないものがあると試合に出られない、とい

う状況になりました。自分に何が足りないのか？自分自身で考える力がついたと思います。

宮脇 同じような感じになりますが、自主性です。そのような感じでやってきています。

伊藤 自立しました！

宮脇 そうです、自立しました。自分たちで考えて2年間やってきました。

——自分たちのチームの雰囲気教えてください

宮脇 最高です！早稲田は監督が変わったのですが、みんなすごく楽しそうです。

伊藤 みんな、去年は死にそうな顔していたので（笑）。

宮脇 去年も楽しかったのですが、今年はより楽しくなって、その中にもちゃんと厳しさが良い雰囲気になってきました。

伊藤 コミュニケーションをとるようになりました。ミスしてもドンマイで済まさなくなりましたし、コーチ陣と選手間でも、「私はこうしたい」、「こうした方が良い」などといったコミュニケーションがとれるようになってきました。

後藤 慶應は、3日前までアメリカに研修旅行に行っていました。阪口さんの意向で、みんなで飲んだり遊んだりする事もチームワークの一環として大事だという事で、そのような機会が設けられました。この2年間で同期や縦のつながり、コーチ陣とコミュニケーションをとる機会が増えてきて、良い雰囲気だと感じています。

西戸 学年関係なく仲良く出来ていることが今日の試合にもつながったと思うので、シーズンが始まったばかりですが、さらに学年の壁を超えてコミュニケーションをとっていき、試合につなげていけるようなチーム環境作りができればと思っています。

——お互いの特徴で取り入れたい部分はありますか？

伊藤 慶應は「大きい」というところです。今日試合して思ったのは、「大きくて羨ましい」ということです。それは、「どうしようもないこと」ですけど（笑）。

宮脇 「のびのびしている」と感じました。私たちも

のびのびやっているのですが、型にはまりすぎて少し固くなってしまふところがあるので。

西戸 今日の一試合目に東大との試合中、早稲田が隣のコートでの試合で、誰かがシュートを入れるとベンチ全員立ち上がっているのを見て「去年と全然違うな」と思いました。素直に自分たちも「やりたい」と感じました。

後藤 早稲田は、走るのがいいと思いました。やはりガード陣など上手い人が多いので、今日も簡単にゴール下に入れられてしまって、展開の速さなどは盗んでいきたいと今日試合して思いました。

——相手チームのキーパーソンは誰だと思いますか？

伊藤 孝文さんです（笑）。

宮脇 黒木さんだと思います。

伊藤 黒木さんは、止められなかったです。

西戸 去年とかわらず、池田慶次郎さんです。守らないと勝てないと思います。

後藤 宮脇だと思います（笑）。

西戸 諄哉も今日よくシュート入っていたので。

後藤 宮脇がいなくなれば、早稲田はインサイドがないので。

宮脇 いや、トミーという新星が現れました。

——コートの外でのお互いの印象は？

伊藤 慶應は頭がよさそうです。

後藤 慶應ボーイです。

伊藤 後藤のことは中2の時から知っていて、一緒に慶應高校に見学に行きました。

宮脇 話によるとイケイケ系らしいです（笑）。

西戸 でも根は真面目です。確かに遊んでいますけど、それはやる事をやった上での遊びで、上手くやっているな、という感じです。諄哉はずっとストイックなイメージがある。変わった？大学で。

宮脇 全然変わってない。

伊藤 友達がいなくなった（笑）。

宮脇 大学にいても気がつかないんだよな。いつも1人でいて…避けている？

伊藤 実際ちょっと避けている（笑）。宮脇はスポ科



に友達いっぱいいて、その輪には私はいれないというか、知らない人ばかりなので。あんなにいつも囲まれていたら、ね？

西戸 高校の時、学級委員長だったのに（笑）。

伊藤 出席番号1番だったから任命されていた。

後藤 西戸は2年生になってから彼女ができたみたいで、1年生のときはよく泊まりに行かせてもらったりして遊んでいたのですが、最近は忙しそうで、プライベートがちょっと謎に包まれているな、という印象です。

宮脇 ほー。

西戸 気を使わなくても…（笑）。また泊まりに来て。

伊藤 まあ20歳ですし。

宮脇 西戸は、高校の時ケツでかいキャラでした。

伊藤 いまは早稲田にも新星現れたよ。

宮脇 是非早慶戦でマッチアップして。

後藤 西戸は、バスケに対してはやっぱりすごく真面目。見た目通り。

宮脇 うん、高校の時もシューティングとかいつもしていたイメージ。



伊藤 宮脇は、ジャンクフード好きだね。

宮脇 いや、最近はちょっと落ち着いて来た。

伊藤 IH買ったんでしょ？自炊しようとして。

宮脇 まだ使ってないけど(笑)。買ったまま箱に入っています。とりあえず買っておこう、という感じですよ。

伊藤 みんなそれなりにストイックだな。ここまで来ているくらいだし。

——新しいキャプテンはどうですか？

伊藤 池田さんは、かっこいいです。

宮脇 イケメンです。華があります。

伊藤 全部持っていけます(笑)。

宮脇 いや、それだけじゃないですけど(笑)。

伊藤 あとは、厳しいですね。

宮脇 厳しいね。

伊藤 私生活は…。まあ、個人に任されている感ありますけど…。

宮脇 私たちが少しへらへらしていたら「おい」って。結構ミーティングを開いて学年関係なく意見を言い合う機会を作ってもらえて、いいキャプテンです。

伊藤 感謝です。

後藤 福元さんは、ふくらはぎが…。まあ、優しいですよ(笑)。こうしてふくらはぎとかいじっても、笑いながら「うゑい！」みたいな感じですよ。そういう面もありながらやっぱり頼りになりますので、4年生の中では一番キャプテンらしいかなと思います。



話も上手いです。自分の意見をしっかり持っていて、それを周りと共有することができる人なので。そういう意味ではついていこうという気持ちに、今のところなっています。今後どうなるか分からないですけど(笑)。

——プライベートで会う機会などはありますか？

宮脇 この前いつだったっけ。

伊藤 あれはリーグ戦で、1部と2部が同時開催の時に…。飲み会してそのまま西戸の家に。

西戸 ウィンターだね。

宮脇 ちょくちょく。

西戸 集まる。

後藤 近々、慶早飲み対決やってみたい(笑)。

伊藤 ごっちゃん、面白いのいっぱい持っているから。私たちあんまり酔わないんだよね。

宮脇 そうなんだよね。

伊藤 強いから、なのかな？

宮脇 近々、プライベートで早慶飲みします。

——オフの日の過ごし方は？

西戸 探りあわない(笑)。

宮脇 お互いそっとして(笑)。

後藤 西戸のオフの過ごし方、逆に聞きたい。

伊藤 そこはあえて探らない方向で。自分への攻撃が怖い。

宮脇 僕ら防御力低いので(笑)。何しているかな…。寝ています。とりあえず昼まで寝て…。だらしない生活をしていますね(笑)。

伊藤 去年と同じだね(笑)。

宮脇 学年で遊ぶというのも…。

伊藤 無いね。

宮脇 いや、仲悪いわけじゃないですよ(笑)。各自でやりたいことを…。

伊藤 「してください」みたいな感じです。

後藤 オフの日は、一日寝ていたり…。あと、私は愛犬家なので(笑)。

宮脇 結構SNS、ツイッターで愛犬トークしたり(笑)。とりあえず毎回「イイね」しています。

後藤 散歩したり、買い物したり、オフでもバスケ

したり、遊びは最近控えています。

西戸 そうだね。

後藤 真面目に。

西戸 オフの日は自分のやりたいことを、その時々でいろんな所に出かけていますね。一人の時もあるし、複数の時もあるし…(笑)。

——早慶戦への意気込みを…

宮脇 勝ちます(笑)。とりあえず、去年負けてめちゃくちゃ悔しかったので。

伊藤 何をやっても、汚い手をつかっても(笑)。そのくらいでないよ。

西戸 去年勝っている分、負けたら悔しいので。今年勝てばとりあえず在学中はイーブンか、勝ち越しか決まるので絶対勝ちます。

後藤 慶応は、春の目標は「慶早戦に勝つ」ということは去年と変わってないので、絶対勝つってことと、やはり去年勝って嬉しかったので、みんなでおいしいお酒を飲めたらいいなと思います。

——早慶戦は他の試合と違いますか？

後藤 慶應はあるかもしれないですね。早稲田っていうのを常に意識していて、春の一番の目標を慶早戦勝利って置くぐらい、その試合に絶対に勝たなきゃいけないという部員共通の意識があります。六大学においても、先程西戸と話していたのは、とりあえず早稲田に勝ったから気楽だね、ということですよ(笑)。

西戸 慶早戦というだけで、学部の友達や部活の友達が見に来てくれるので負けた姿を見せられないって思いが慶早戦に懸ける思いかなって、私は勝手に思っています。

伊藤 友達はいないのですが(笑)。知り合いは来るので。私も同じような感じです。せっかく応援しに来てくれているので、勝ってお互いに喜びたいと思っています。

宮脇 去年、負けるまで特に慶應だからとか意識することはなかったのですが、負けてとりあえず悔しかったので今年もう、うゑい！言葉がでてこないです(笑)。とりあえず勝ちたいです。



——今シーズンの意気込みをお願いします

伊藤 チームの目標は、一昨年早稲田は2部に落ちてしまって、1部復帰ができなかったのが、私たちができることってというのは、先輩についていくこととか。プレーも割と思いつき…。

宮脇 何も気にせずに行こうと思います。

伊藤 先輩が補ってくれていた部分があったのですが、今年は上級生の一員ともなるので去年私たちがしてもらったようなことを下級生にやりつつ、4年生もサポートしてプレーしやすい環境を作れたらなと思います。

宮脇 一緒です(笑)。

西戸 慶応のチームの目標は高く、インカレ優勝で、1部に残りながら一つ一つの試合で泥臭く勝利を目指していくスタイルが目標です。春シーズン最後の慶早戦をいい形で終われるようにやっていきたいのと、個人的にはもっとチームへの発言力を持ってみんなを引っ張っていける立場を作って、来年へのステップにできたらなと思います。いままでの2年間以上に充実して自分の成長につなげていきたいと思っています。

後藤 チームの目標は、西戸が言ってくれたようにインカレ優勝なのですが、個人としては阪口さんに「3年生になることで主体者意識を持って」というように言われていて、今までは下級生としてバスケットボールにがむしゃらに取り組んでいましたが、今年はチームの一員なんだというか主体性を持って取り組んでいくということを更に意識していきたいです。

慶應大学
堂本 阿斗ディーン慶應大学
木村 能生早稲田大学
石原 卓慶應大学
トカチョフ サワ早稲田大学
新川 敬大早稲田大学
森井 健太

——六大学リーグを振り返っていかがですか？

森井 新チームになって初めての試合です。監督も変わり「全員試しに使おう」ということになって、いい雰囲気できているので、いいと思います。

石原 新しい監督になって、結構選手主体でバスケットボールをやらせてくれるという感じなので、去年より選手たちが自分のやりたいことがはっきりできて、その分雰囲気もいいのかなと思います。

サワ 去年は伊藤さんがキャプテンでいい意味でのゆとりやリラックス感があったのですが、今年は福元さんがキャプテンで締まりのあるチームになりつつあると思っています。そういった意味では、きちんとした試合をやっていると思います。

堂本 私自身の話になってしまうのですが、出場時間も自分のやることも決まっているので、やりやすくプレーできて、楽しくやっています。

木村 練習期間が短い中でも、ある程度はやっていかなければいけないのですが、今日は立教に負けてしまったので、また明日頑張っていきたいです。

新川 言いたいことをほとんど言われてしまったのですが、去年は下のポジションをやるのが多かったのですが、今年は上のポジションでやれているので、すごくやりやすいですし、自分としてもいい経験になっています。

——お互いのチームの印象は？

森井 慶應は、とても堅い守りで、速い流れを得意とし、シュートもよく入るので、いいチームだなと思っています。

石原 私はガードなのですが、慶應のガードの人たちは背も大きくて、体も強くて、本当に1部でもトップレベルの選手層があります。センター陣もトカチョフなどがいて、実力もあると思います。

サワ 石原、いつから私のことトカチョフって呼んでるんだよ(笑)。

石原 ただ慶應は強いとは思いますが、早慶戦では負けません。

サワ 早稲田の選手は個人のレベルがとても高く、それを個人の能力を活かした合わせだったり、速攻だったり、スリーポイントだったりすごい。一回波にのったら止まらないチームだと思うので、手強い相手だと思っています。

堂本 早稲田は、一言で言うと速攻ですね。

スピードに乗った速攻が、私のイメージに残っています。

木村 サワも言っていたのですが、早稲田は個人の能力がすごく高くて敵わない印象はあるのですが、チームで協力して戦っていきたくと思っています。

新川 慶應は、ガード陣の能力がすごく高く、センター陣も強く、ディフェンスもすごく当たってくるため、やりづらい相手だと思います。とにかく、守りの強さが印象的です。攻めづらいと思います。

——お互いの選手の印象は？

森井 3人とはマッチアップはしてないですけど、センターポジションで仕事をしていて、結構強いプレーを3人ともすると思うので、そういうところはすごいと思います。

石原 サワとは3 on 3で同じチームで戦ったり、あとは夜に体育館借りて色んな人たちと一緒にバスケットをしたりして、結構関わりは多いですね。

サワ 印象は？

石原 サワは、中でゴリゴリやっているイメージがあるのですが、外でスリーポイントも打てるし、ミドルも入るので、相手からしたら嫌かなと思います。後の2人は、あんまり試合見たことないのでわからないですけど(笑)。堂本は、夜バスの時はシューターというか、一本入ったら止まらないという感じですかね。——サワ選手は昨日新川選手とマッチアップされていましたが…

サワ まあ最初出てきた時は、ヤツがついてきたなと(笑)。私は結構休んでいたので、「新川は疲れてい

るだろうから一発やってやろう」と思っていました。それでやったら彼はプライドが高いので、私が気持ちよくなって油断していた部分もあるのですが、すぐやり返されてしまいました。

新川 調子乗っているなと思っていました(笑)。

サワ 調子乗っているじゃなくて、上がっているって言ってよ(笑)。

新川 サワは乗せると厄介なので、流れを断ち切るために頑張りました。

堂本 特に京北出身の2人なので、私が出なかったインターハイやウィンターカップに出場し、プレーはトップクラスだなと思いました。高校時代は、私は見るだけだったのですが、今は対戦相手としてプレーできるので幸せです。

木村 森井は、特に洛南の時から見ていたのですが、敵わないなという印象があって、もうその一言ですね。

——昨年1年間を振り返って…

森井 去年は1部に上がる目標を立てていたのですが、上がりませんでした。チーム的にも落ちている部分があったので、そこを今シーズンはしっかり1部に上がれるように頑張っていきたいです。

石原 去年は、リーグ戦中にチームがバラバラになってしまって、同じ方向にみんなが向いていない感じになってしまいました。その結果リーグ戦の後半に負けて1部に上がれなかったのですが、今年はキャプテンの池田さんや副キャプテンの木澤さんがチームをしっかりまとめてくれて、怒るときはしっかり怒ってくれて、チームが一つの方向に向いているなという感じがします。

サワ 伊藤さんが大好きすぎて、伊藤さんが作り上げたチームも好きで、去年は好き勝手にやらせてもらっていて、本来なら緊張するようなところも私はあまり緊張せずにやれていたのすごく楽しかったです。でも2年生となって1年生が入ってくる中で、もっと堅実に状況を見極めていく必要があると思っています。キャプテンも福元さんですし、好き勝手はできないかなと(笑)。

堂本 去年は、チームがインカレやリーグ戦でいい結果を出す中、私はベンチ外で見ていることが多かったのですが、楽しめたかと聞かれればそこまでは楽しめなかったですね。今年は、充実感がもっと欲しいです。

木村 リーグ戦で出してもらって、先輩達にも助けられて、インカレにも出ることができたので、それはすごくいい経験になったと思います。今年はそれを活かして頑張っていきたいです。

新川 石原も言っていたのですが、去年は途中でチームがバラバラになって勝てなくなってしまって、1部にも上がれずインカレも出られなかったのが、本当に苦労した1年だったと思います。

——尊敬する先輩は？

森井 私は、洛南の先輩でもある河合さんをいろいろな部分で尊敬しています。プレー面もそうですし、精神的にもすごい人です。

石原 私は、京北で一緒だった池田慶次郎さんですね。バスケも上手いし、勉強面でも単位落としていないですし(笑)。いろいろな面で尊敬しています。

サワ 私は、真木さんですね。いまの私が存在しているのは、彼のおかげといっても過言ではないです(笑)。高校の時はしっかりと育ててもらって、今も面倒を見てくれるので感謝していますし、これから恩返ししていきたいです。

堂本 私は、西戸さんですね。エネルギッシュなプレーと疲れを感じさせないディフェンスもあるし、自分で決めるといふ気持ちの強さも人一倍あるので、そこがすごいと思います。

木村 私は、黒木さんです。寮でも同部屋で、ポジションも一緒に教わることもばかりで、本当に尊敬しています。

新川 私は、同じ高校出身で同じ学部にいる、濫田さんです。勉強とかでも助けてもらっているの、尊敬しています。

——オフの過ごし方は？

森井 最近はバイトをしています。

石原 私いま彼女がいないので…、募集中って書いて

ておいてください(笑)！遊びたいのですが、彼女がいないから…。いまはバイトをしてお金を貯めて、いつか彼女ができたなら一緒においしいご飯を食べたいなと思っています。

サワ そうですね、私は慶早戦に日々備えているので。オフの時間にも腕立て伏せやストレッチをして、しっかりとケガをしないように備えています。オフだからこそ、その点をしっかりと…本当は、私もバイトをしていましたね(笑)。普段から、オフの日はあるだけ家にいないようにして、どこかに出かけるようにしています。私はよく「誰か映画に行こう」とツイッターで呼びかけるのですが、誰からも返事が来ないという(笑)。大抵一人で、映画やどこかに行っていますね。うーん、大切な人とどこかに行きたいところですね。

堂本 私は家族が大好きなので、家族で過ごしています。あとは、バイトもしています。そうですね、私は充実したオフを過ごしているの、私ほどオフを楽しんでいる人はいないと思います。つまり、あの、彼女募集中ではないです(笑)。

木村 それが言いたかっただけ？

堂本 うん。

木村 私も、バイトをしています。横浜のラーメン屋です。

新川 寝るか、友達と遊ぶか、ゲームセンター行くかです。



堂本 そういえば私、旅行に行きました。

一同 いいよ、その話は。

——去年の早慶戦を振り返っていかがですか？

森井 去年、私自身は出ていないのですが、初めて早慶戦と言うものを見てすごく盛り上がっていました。あの雰囲気の中でプレーするのは、すごくいい経験だと思いますし、いい機会だったと思います。

石原 私も試合に出ていないのですが…。早慶戦の前日に雨が振っていて、でも傘を持ってなくて、走ってカーブを曲がった瞬間に、転んでボールに足をぶつけました。雨が振っているにも関わらず、痛すぎて、3秒間くらい寝てたのです。そのことを覚えています(笑)。早慶戦は、慶應でやったよね？日吉で。ライバル校同士の対決で、お客さんがいっぱいいて、試合というよりもお祭りのように感じました。出たら楽しいのだろうな、と思っていました。

サワ 私は、慶早戦がデビュー戦でした。慶早戦は、経験したことも見たこともなかったのですが、普段の練習から、先輩たちの慶早戦に対する意気込みを感じていて、きっと途轍もない試合なのだろうなと思っていて、私も先輩方の気持ちを受け止めて同じような気持ちで練習していました。実際に慶早戦を経験してみて、「うわっ！」と。私は、人が入れば入るほどテンションが上がって頑張りがたくなるタイプなので、「最高だっ！」と思って。高校のウインターカップなども東京体育館で経験していましたが、そ

れとは違う独特の雰囲気がありました。そこで出させていただいて、いい経験になりました。今年も絶対に勝ちたい。いや、勝つ。そういう思いです。

堂本 私は、小学生の頃から慶早戦をずっと見ていました。まあ、去年も見ていただけだったのですが(笑)。慶早戦に出場するのが一つの夢だったので、その中で同期が活躍しているのを見て、正直うらやましい気持ちもありましたね(笑)。本当に、先輩たちの取り組み方も違って。勝ちたいですね。やっぱり。

木村 去年は、出られなくて悔しい思いをしたので。今年はやっぱり出て、少しでも勝ちのために貢献したいですね。

新川 入学してからずっと、先輩方がすごい雰囲気だと言っていました。いざ経験してみると本当に独特な雰囲気だと思いました。私は、その中でプレータイムをもらうことができ、すごくいい経験になったと思っています。

——早慶戦のキーマンは？

森井 ここまでも何度か話に挙がりましたが、インサイドがカギを握る、と思います。そういう気持ちを込めて、宮脇さん。宮脇さんの踏ん張りがチームにとってカギとなると思います。

石原 私は、新川がキーマンになると思います。新川は、上のポジションでも、下のポジションでも頑張っているの、いま名前が出た宮脇さんと、富田(スポ1=洛南)もいるのですが、富田は1年目です。そこは新川が上も下も頑張ってもらって、走ってもらえたらすごいと思います！今年の早慶戦のキーマンは、絶対に新川です。

新川 (笑)。

サワ 早稲田のキーマンは、おそらく去年と同様に池田さんだと考えています。去年は、池田さんをほぼ完封したことが勝利につながったと考えていて。池田さんをマークすることが前提で、去年はリバウンドも慶應がとて取れていたの、センター陣も奮闘したいと思います。

堂本 リバウンドが大事になると思うので、もちろん全員なのですが、名前を挙げるとすれば西戸さん。

両校ともレベルは一緒だと思うので、気持ちの面で勝つためにはあの気持ちの強さが必要だと思います。

木村 期待も込めてサワに一票。ちょっとサワには頑張っただけです。以上です。

サワ 私の名前を上げたわりには短くて…なんかな…(笑)。

新川 私は、言われてしまったのですが…

一同 「私です」かな？

新川 いや(笑)、宮脇さんだと思います。インサイドは早稲田も弱点だと思うのですが、宮脇さん次第でリバウンドなどの支配率が変わってくると思うので、頑張っただけです。

——意気込みをお願いします

森井 勝てるように一つずつやりきって、後は気持ちだと思うので。頑張りたいと思います。

石原 去年出られなかった悔しさを胸に、今年はあのコートに立って、立つだけじゃなくて活躍します。

そして活躍しつつ、絶対に、勝ちます。

サワ 去年は、4年ぶりに勝ったということで、感動しました。私は、1年目にして勝利するという贅沢な経験をさせていただきました。あの会場であの雰囲気の中で、負けることを考えると、すごく嫌です。だから今年も、何がなんでも、骨が何本折れても、勝ちに行く！勝つ！以上。

堂本 私もまた、一言になってしまうのですが…「勝利」。勝つという気持ちを強く持って、それだけを意識して、泥くさいプレーで貢献できたら嬉しいです。

木村 去年出られなくて悔しい思いをした分、今年はその発散したいです。自分の実力を出して、少しでも爪痕を残して、そして勝ちます。

新川 去年と同じように楽しんでプレーして、勝つと同時に、キーマンにも挙げられてしまったので、期待に応えられるように頑張ります。